



そよ風



大阪市立大学
医学部附属病院

発行/大阪市立大学医学部附属病院 良質(QC)医療委員会
〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
TEL 06-6645-2711
http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/

2010年5月
第11号



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

燃えろ！改善魂！—より良い医療をお届けするQCサークル活動推進中—

まずQC大会といってもイメージができませんので、少しQCについての豆知識を紹介したいと思います。

QCとはクオリティー・コントロール(品質管理)の略で、一言で言うところにある特殊な技法を用いた業務改善です。この活動は、製造業を中心とした改善活動で日本を始め世界中に広がっています。近年は、サービス業や病院でも導入が増えていますが、まだまだ大学病院で取り組んでいるところは少ないのが現状です。QCを進めるには、職員が各グループに分かれて仕事・サービスの品質を良くしていこうという活動が必要です。このQCサークル活動の集大成である成果発表会が、このQC大会です。

市大病院では、当院のスローガンである「Smile・Service・Science」を歩んでいくために、一昨年からQCサークル活動に取り組んできました。QC大会のエントリー数は、1回目16題、2回目32題と年々増加しています。全診療科、病棟、中央部門、事務部門の審査員による厳正な審査の結果、金賞に輝いたのは12階西眼科病棟の看護師さん達です。

演題は、「スムーズな入院受け入れのシステムづくり」グループ名は、「めだまドリフタあず」です。プレゼンテーションはアニメーションを使用するなど工夫を凝らし、病棟看護師が一丸となったユーモアあふれるもので、会場にも思わず笑顔が…。成果として看護師さんの残業がかなり減りました。職員の満足度アップにもつながり、職場の笑顔が増えました。これが患者さんにも伝わります。

他にも、医療安全・エコ・業務の効率化などたくさんの応募がありました。

このように、成果発表をする大会を開催することで、いろいろなサークル活動の内容を知ることができ、病院全体の取り組みへと拡大していきます。それが、患者サービスや医療安全・経済効果と多方面に波及していくと思います。今後もQC活動を継続することで、質の高い医療を提供し、信頼される病院作りを目指して行きたいと考えています。

これらの発表内容は、3階の渡り廊下(職員のみ通行可)に貼り出すとともに、冊子にして各部署に配布し、役立てる計画です。

文責 宮崎 京子(看護副部長)



工夫を凝らしたプレゼンテーションの様子



質疑応答も和やかな雰囲気



表彰の後、みんな笑顔で記念撮影

理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します

こころ豊かで信頼される医療人を育成します

医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます

(大学病院の) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

～アートプロジェクト「霧はれて光きたる春」開催！～ シャボン玉で、みんな、元気になあ～れっ！

まだ肌寒い早春、3月初旬の夕刻一雫の落ちる音が全館に響きはじめる。「シューッ」という音とともに、病棟を貫く吹き抜けに立ちこめる霧。その霧が晴れてくると・・・軽やかなオルゴールの音色と共に、光り輝くシャボン玉が降りてくる！各階の窓辺には、たくさんの人、人、人。そしてたくさんの笑顔が・・・。



市大病院の名物事業「アートプロジェクト」、花村周寛さんプロデュースの「霧はれて光きたる春」は、3月8日から12日の間だけ行われたスペシャルプログラム。病院6階から18階の吹き抜けを全て使った、国内の病院初の巨大イベントです。病棟の吹き抜けは、元々明かり取りとして作られたもの。そんなところでアートができるなんて誰も思いつかない発想で、新聞にも大きく取り上げられました(3月9日毎日新聞掲載、4月1日読売新聞掲載)。

花村さんは、4月に6階の庭で銀色の風船を浮かべて素敵な空間を演出してくれたアーティスト(「風のおみく詩」)。記憶に新しい方も多いのでは？今回のイベントは、昨年秋から、当院のたくさんの職員が花村さんと一緒に準備を進めてきました。「患者さまやご家族に、素敵なプレゼントを届けたい！」と、全職員が協力体制を取って頑張りました。病院ボランティアの方々、学生ボランティアのみなさんも、大勢、協力してくれました。花村さん指揮下、全国の有名なホールで特殊効果を担当している技術の方々の一糸乱れぬ活躍も、また見事でした。

花村さん曰く「入院中は何かと不安になりますよね。でも、希望がある。仲間がいる。」と、「霧」で不安を、「シャボン玉」で希望といのちを表現したんだそうです。美しい、それでいて何処かなつかしくて、せつなくて・・・そんな風景を目の前に、患者さんご家族も職員も、みんな、笑顔で窓辺にならんだとき、そして、窓越しの各階にたくさんの仲間を見つけたとき、あたたかな気持ちで満たされたのではないのでしょうか。当院のスローガンは、「スマイル、サービス、サイエンス」。これからも、みなさまと一緒に、勇気ある、やさしい病院に育っていききたい・・・アートプロジェクトは、そんな私達職員から患者さまへのメッセージなのです。

文責 山口 悦子(良質医療委員会委員)

スキルスシミュレーションセンター (SSC) のご紹介

「あつまれ！メディカルキッズ2009」を開催して

大阪市立大学医学部附属病院スキルスシミュレーションセンター
奥幸子、首藤太一、広橋一裕

スキルスシミュレーションセンター(SSC)はあべのメディックスビル8階メディカルフォーラムにあり、各種シミュレーション器材を揃えた、医療現場等で役立つ様々な技術をトレーニングすることができる施設です。利用者の方にスムーズにトレーニングを受けていただけるよう、管理者が常駐し、いつでも器材を利用できるのが特色で、平成19年3月の開設以来、医学生・看護学生・臨床研修医・看護師など年間約7000名の方にご利用いただいています。



これまでの医療教育は実際の臨床現場で経験を積むことが中心でしたが、良質で安全な医療を患者さんに提供するため、医療の分野においても事前にモデルやシミュレーターを用いて十分な訓練を積むことができるシミュレーション教育が取り入れられるようになってきました。

実習や講習会ではシミュレーターを使い、本番さながらの緊張感のなか実際に手や体を動かして自分の苦手な部分や課題を知ることができます。またインストラクターの多くは若手の医師で、時には学生がインストラクターを勤めることもあります。「教えることは学ぶこと」をモットーに、教えることによって技術を再確認し、より知識を深めることに役立っています。

また医師・看護師などの医療従事者や医学部・看護学科の学生のみならず、一般職員に対しても講習会を開き、危機管理意識を高めています。その活動のひとつが病院の一般職員を対象とした自動体外式除細動器(AED)の使い方を学ぶ講習会で、インストラクターはライフサポートクラブ(LSC)という学生のクラブ活動のメンバーが務めます。このAED講習会は学生が独自で作製したビデオ映像を見ながら、インストラクターがマンツーマンで指導しますので、大勢の受講生の前では大きな声を出すのは恥ずかしいといった方も心配はいりません。素朴な疑問をいつでもインストラクターに聞くことができ、ひとりひとり適切なアドバイスを受けることもできます。約1時間とコンパクトながらも救急に必要な手技と一連の流れを身につけることができるこの講習会は受講生からも大変好評で、2度、3度と受講される方もたくさんいらっしゃいます。学生インストラクターによる活気あふれる雰囲気の中受講できるのも人気の一因かもしれません。またインストラクターを務める学生も世代や年齢の異なる方と接することによっていろいろなことを学ぶことができます。



AED講習会をご見学になられる高円宮妃久子様(2008年9月 写真左) AED(写真下)



キッズ・お父さんお母さん・ボランティアスタッフなど総勢約90名と一緒に楽しみました。看板のメディカルキッズ君は病院ボランティアの方がデザインを作製して下さいまし

このように、SSCでは授業利用や各種講習会のほかにもさまざまなイベントを開催しています。今後は利用対象者をひろげ、他の医療機関の方や近隣の地域住民の方を対象とする講習会も開催できるよう取り組んでいく予定です。SSCの活動に引き続きご理解とご協力をいただけますよう、よろしく願いいたします。

あつまれ！メディカルキッズ

昨年12月には「あつまれ！メディカルキッズ」というイベントを開催しました。病院職員のお子様(小学生限定)を対象とし、お父さんお母さんの働く病院で両親のお仕事を体験してみようというイベントで、34名の元気なキッズが参加してくださいました。当日はお父さんお母さん方には普段の勤務中の服装(白衣など)に着替えていただき、キッズも白衣や手術着に着替え、かわいいミニドクターとナースに変身しました。その後、キッズはグループに分かれ、手術室・血圧脈拍測定・車椅子体験・注射・救命救急室などの5つのアトラクションをまわりました。はじめは緊張のせいか、少し恥ずかしがっていたキッズですが、時間が経つにつれて大はしゃぎ。はじめてのお仕事体験を満喫してくれたようで、帰るときは「また来たい！」との声もたくさん聞かれ、冬休みの楽しい思い出となったようです。元気いっぱいの子供を各グループでお世話をしてくださったのは学生ボランティアのお兄さんお姉さん、そして各アトラクションではりきってインストラクターを務めてくださったのはお父さんお母さんでした。普段はなかなか見ることができない、お父さんお母さんが白衣姿で働く様子にキッズからは「いつもよりカッコ良かった！」や「いつもよりがんばっていた」などの感想が多数寄せられました。お父さんお母さんからも「こどもに普段どんなことをしているか見せることもでき親子で楽しめました」というお言葉をいただきました。開催にあたり、関係各部署のみなさまにお世話になりました。ありがとうございました。



救命救急室
まずAEDを使った心肺蘇生法を勉強して、その後急変した患者さんをみんなで力を合わせて救命開始！患者さんを見事に助けることができハイタッチで喜びました。



聴診器
実際に心臓や肺、お茶を飲んだときの胃の音など体の中いろいろな音を聞きました。

患者様の権利

- ・安全で質の高い医療を受ける権利があります
- ・自由意志に基づき治療を選択する権利があります
- ・十分な説明と情報提供を受ける権利があります
- ・セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介を受ける権利があります
- ・人の尊厳を尊重した医療を受ける権利があります
- ・医療に関する個人情報やプライバシーが保護される権利があります
- ・健康教育を受ける権利があります

患者の皆様へのお願い

- ・あなたの健康に関する情報は、できる限り正確にお伝えください
- ・病院スタッフの説明がわかりにくい場合は、納得できるまでお聞きください
- ・診療上必要な指示や助言は、お守りください
- ・他の患者様の権利を尊重し、迷惑がかかることのないようご配慮をお願いします
- ・治験・臨床試験に、ご協力をお願いします
- ・大学病院の責務である医療人の育成と研究に、ご理解とご協力をお願いします



病院ボランティアを募集しています！！

◆活動内容◆

- ・外来を中心とした患者さまへの院内案内
- ・車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
- ・その他

※活動内容に関するアイデアにつきましても、今後考えていきたいと思っています。

◆お問合せ先◆

〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7
大阪市立大学医学部附属病院
ボランティアルーム
TEL/FAX: 06-6645-2694
E-mail: volunteer@med.osaka-cu.ac.jp
★外来でオリジナルエプロンを着用しているスタッフにお声掛けください。

大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分
電話 (06)6645-2121 (代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

